

NEWS RELEASE

2020年11月6日

日本豆乳協会

SOY2015

日本豆乳協会

2020年7-9月期の豆乳類の生産量が113,000kℓを達成

～新型コロナウイルスの影響による在宅時間の増加に伴い、
家庭内での豆乳（無調整）の摂取がさらに普及し103.6%に～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：重山 俊彦 キッコーマンソイフーズ株式会社 取締役会長、事務局長：川村良弘、以下豆乳協会）では、2020年7-9月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は、113,565kℓとなり、前年同期比103.5(%)を確認しました。「豆乳（無調整）」を中心に市場が伸長しています。

豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、豆乳類を分類別に見ると、最も伸び率が高いのは「豆乳（無調整）」で、生産量は32,630kℓ（114.9%）となりました。また、生産量が最も多い「調製豆乳」は、ほぼ前年並みの54,953kℓ（99.9%）、「果汁入り豆乳飲料」は、4,830kℓ（103.8%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、16,929kℓ（99.8%）となりました。一部、前年とほぼ同様のカテゴリーもありましたが、全体では豆乳生産量は順調に拡大しており、出荷量においても生産量と同様の傾向を示しています。一方で、主に業務用として生産している「その他」に分類される豆乳においては、外食自粛が続いていることもあり、2020年に入り低迷していましたが、7-9月期においては、4,222kℓ（90.9%）を記録し、ほぼ昨年レベルに戻ってきています。

豆乳協会では、7-9月期においては、引き続き、新型コロナウイルスの影響で、宅内需要が増加傾向にある中で、豆乳市場は、健康志向の高まりから、飲用としてはもちろん、豆乳協会が提案している料理に使用する豆乳の需要が伸び、利用者が拡大していることが要因として挙げています。特に、料理需要の多い、豆乳（無調整）の10のパッケージを中心に生産量が増加しており、家庭内での消費量が大幅に増加したと分析しています。一方で、在宅勤務が増え、オフィス街でのコンビニエンスストアでの豆乳の消費量は減少したことから、調製豆乳の微減につながっていると考えています。

なお、主に業務用にあたる「その他」に分類される豆乳の1月-6月期の生産量をこれまででは合計4,266klとしてきましたが、一部追加集計があったため、実際には、5,319klとなります。

(参考)

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

(株)VA インターナショナル
田中/陳

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017